

口腔粘膜検査のコツ
—口腔がんの早期検出を可能にする鑑別方法—

岡崎市民病院歯科口腔外科
長尾 徹

口腔がんは診断の時点で半数以上が進行がんの状態です。診断が遅れる原因は患者さんの医療機関への受診の遅れと医療者側の診断の遅れが大きく関係しています。一方、かかりつけ歯科医はかかりつけ医よりも口腔がんを最初に発見するチャンスが高いことは半世紀以上前から指摘されています。患者さんが初期の異常にいかにも早く気付いて医療機関に受診するか、また、一次診査の段階でいかにも早く病変を検出するかが早期診断、早期治療のカギとなります。

口腔がんの検出は適切なトレーニングを受ければ、特別な診断ツールを用いることなく視診のみで高い感度・特異度を得ることが可能です。中でも口腔がんの約半数を占める舌の診査は重要です。ポイントは舌側縁の視診と触診です。口腔がんの特徴はその多くが白板症、紅板症といった前がん病変を経て発症するため、悪性病変だけでなくこのような病変を早いうちに検出する意義は大きいといえます。講演では口腔粘膜検査を日常臨床のルーチンワークとするためのコツと口腔がんの予防についてお話しします。

略歴

昭和 55 年 3 月	愛知学院大学歯学部歯学科卒業
昭和 56 年 4 月	愛知学院大学歯学部口腔外科学第二講座入局
平成 11 年 4 月	WHO 口腔がん研究協力センター・ロンドン大学キングスカレッジ歯学部留学・客員上級研究員
平成 13 年 2 月	政府開発援助・スリランカ高等教育省・歯学教育プロジェクト JICA 技術協力プロジェクト・チームリーダー(2年間)
平成 17 年 3 月	愛知学院大学歯学部口腔外科学第二講座准教授
平成 18 年 4 月	岡崎市民病院歯科口腔外科統括部長
平成 21 年 4 月	藤田保健衛生大学医学部客員教授
平成 26 年 4 月	島根大学医学部臨床教授

学会活動

アジア口腔外科学会・理事
日本口腔外科学会専門医・指導医・代議員

日本顎顔面インプラント学会・理事・指導医

日本口腔内科学会代議員

日本歯科麻酔学会認定医

日本外傷歯学会認定医

Editorial Board, International Journal of Head and Neck Surgery

Editorial Board, International Journal of Oral and Maxillofacial Pathology

Editorial Board, Translational Research in Oral Oncology